

今年度は医療の進歩やニュースなどで話題となったものを中心に取り上げていきます

2014年の国立がん研究センターのデータによると、がんの死亡者数は男性で①肺がん②胃がん③大腸がん、女性で①大腸がん②肺がん③胃がんとなっています。これらに対する治療はその進行の度合いによって手術、抗がん剤治療、放射線治療、免疫療法などが行われています。ここでは最近大きく進歩している抗がん剤治療についてお話ししたいと思います。

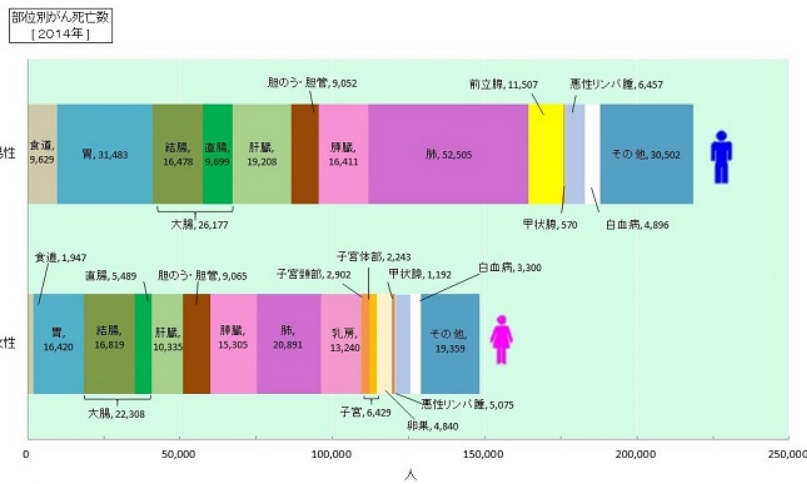
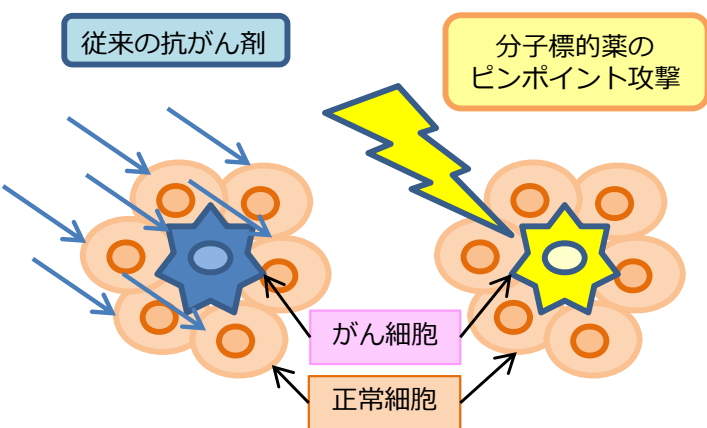
抗がん剤の種類は大きく分けて①化学療法薬（殺細胞性抗がん剤）②サイトカインなどの非特異的免疫療法薬③内分泌療法薬（ホルモン療法剤）④分子標的薬の4種類に分類されます。これまで抗がん剤治療は殺細胞性抗がん剤が主役となっていました。分子標的薬の出現によってここ10年の間に大きく変わってきています。

分子標的薬とは**体内の特定の分子を狙い撃ちしてその機能を抑えることによりがんを治療する薬（図1）**です。正常細胞とがん細胞との違いを遺伝子レベル・分子レベルで解明し、がんの増殖や転移に必要な分子を選択して抑えることで治療することができます。

分子標的薬はその機能から大きく分けると**モノクローナル抗体と低分子医薬品の2種類に分けることができます**。モノクローナル抗体はがん細胞特有の抗原に結びつくことで**がん細胞の増殖を抑制する、人工的に作られた抗体**です。低分子医薬品は**がん細胞の増殖に関わるチロシンキナーゼの阻害薬**や**がん細胞が誤って作った不要たんぱく質を分解する酵素（プロテアソーム）を阻害することでがん細胞を自滅させるプロテアソーム阻害薬**、**がん細胞に酵素や栄養を補給するための血管を新しく作り出す血管内皮増殖因子（VEGF）を抑えてがん細胞が増殖できなくする血管新生阻害薬等**があります。

また、この分子標的薬は、その性質から副作用も少なく効果も大きいものと期待されましたが、劇的に効果が見られた患者さんもあるものの間質性肺炎などの副作用で死者が出て大きな問題となったこともありました。その後、研究が進み、**がんに特異的にみられる分子でも人により変異型が存在し、治療効果に影響を与えている**ことが分かってきました。そこで、最近では治療を検討する際に患者さんの血液やがんの組織を検査することで、**適合する分子や遺伝子があるかどうか事前に調査**が行われるようになり、より優れた効果が得られるようになってきています。

図1 分子標的薬の作用機序



資料：国立がん研究センターがん対策情報センター
Source: Center for Cancer Control and Information Services, National Cancer Center, Japan

なかよし薬局では、地域貢献型の医療を目指して一緒に仕事をしてくれる薬剤師を募集しています！
詳しくは下記連絡先まで！



株式会社イノベーションオブメディカルサービス 厚木支社（採用担当）

電話：046-220-1171

なかよし薬局（全17店舗）
船子店、東名店、高森店、愛川店、関口店、愛甲店、妻田店、局前店、恩名店
酒井店、湘南台店、荻野店、愛甲南店、中津店、栄店、みらいが丘店、東大竹店

電子メール：recruit@ims-inc.co.jp

Editor: Ichikawa